

青陵

ごあいさつ

同窓会長 岡田 展弘 (25期)

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素から同窓会の運営にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私は25期卒業の岡田展弘と申します。この度、加川英郎会長の退任に伴い平成29年8月に開催されました本部同窓会総会において、ご承認をいただき会長に就任いたしました。大役を仰せつかり身の引き締まる思いでございます。

若輩者ですが、新体制のもと精一杯頑張る所存でございますので、皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

平成30年には、母校が創立110周年を迎えます。母校発展のため引き続きご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



校長 土家 慎夫 (同窓会名誉会長)

同窓生の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。また、日頃から本校教育に対しまして温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

私は平成29年春の人事異動で高梁高校より赴任いたしました。歴史と伝統のある倉敷青陵高校のために、責任の大きさに緊張感を持ちながら精一杯やらせていただこうと考えております。特に来年度は創立110周年の区切りの年を迎えます。同窓会の方々のご協力をいただきながら準備を進めますので、母校の発展のために支援をいただければ、と思います。

最後に、同窓生の皆様の益々のご活躍とご多幸をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。



前同窓会長 加川 英郎 (4期)

会員の皆様、お元気で活躍のことと存じます。

さて私こと、今夏の本部同窓会総会で会長を退任いたしました。振り返りますと、石原隆司会長(3期)より引き継ぎ8年間がむしゃらに頑張ってきました。会員各位、学校当局のご支援により無事大任を果たすことができましたことを感謝申し上げます。

その間、同窓会会員名簿の発行、「同窓会だより 青陵」の全会員配布、本部総会の活性化を図ることができました。

これからは後任の岡田展弘会長を中心に、若い力で同窓会が盛り上がっていくことを期待しています。

最後に、会員皆様のご健勝と青陵高校および同窓会の益々のご発展を祈念して退任のご挨拶といたします。



教頭 泉 浩明

平成29年4月に赴任してまいりました教頭の泉 浩明と申します。どうぞよろしくお願いたします。

青陵生は本校の伝統と実績を背負いながらも、日々お互いに切磋琢磨しながら勉強や部活動に励んでおります。整った学習環境の中で学ぶことができるのも、偏に同窓会の皆様のご助力あってのことと思っております。

これからの教育には学んだ内容を基に新たな価値を創造し、自ら人生を切り拓いていく力を養成することが必要とされています。本校の与えられた環境を生かしながら、さらなる進化へ向けて教育内容の改善に努めたいと考えております。同窓会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



前校長 田中 尚

4年間、倉敷青陵高校で勤務させていただきました。未来に夢を持ち仲間を大切にする青陵生、献身的な教職員のおかげで、私自身たくさんのことを学ばせていただきました。最後の期間を青陵で過ごさせていただいたことで、教員生活38年間のすべての出来事が楽しい思い出に変わったような気がします。

特に、同窓会の皆様のいつまでも軒昂、闊達なお姿や青陵に対する心のこもったご助言は、多くの勇気と示唆を与えてくださいました。今後は、外から倉敷青陵高校の発展と同窓生の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



倉敷青陵高校 創立110周年記念式典

*平成30年9月28日(金) 倉敷市民会館

午後1時 ~ 2時30分 記念式典

同2時40分 ~ 4時10分 記念講演

京都大学教授・森和俊氏(28期卒業生)

演題「田舎者の少年がどのようにして

「フスカー」賞受賞者になったのか?」

*記念事業 同窓会会員名簿39号

(同年5月発行)

(名簿確認作業へのご協力と購入をお願いいたします)

実行委員長 同窓会会長・岡田展弘

倉敷青陵高校

倉敷青陵高校PTA

倉敷青陵高校同窓会

31期 細田 貴道

企画力の加川会長(4期) 8年務め退任

今年も総勢約300人の同窓生が一堂に会し、妹尾美穂子さん(31期)の司会進行で、楽しく和やかに懇親を深めました。

今回の総会をもって退任される加川英郎会長(4期)がご挨拶され、大きな花束と記念品を、この後、乾杯の音頭を取る62期の女性2人から贈られ、大きな拍手とともにみんなでお祝いしました。



花束と記念品を贈られる退任の加川英郎会長

加川会長は8年間の会長在任中、新たな発想と企画力で同窓会の充実を図られ、総会参加人数も常時300人を超えるほどになり、同窓会を盛り上げていただきました。ご尽力いただいた加川会長に心より感謝申し上げます。

土家榎夫名誉会長(校長)のご挨拶に続き、まず加川議長の進行により議事が行われました。平成28年度行事・決算報告と会計監査報告が承認されました。加川会長退任による役員改選では、岡田展弘副会長(25期)が選任され、一気に21歳の世代交代が果たされました。

ここで岡田議長に交代、会長の初仕事をしました。同29年度行事・予算、規約の一部改正が上程され、来年学校創立110周年を迎えるにあたり、記念事業への繰出金200万円を含む予算などすべてが承認されました。

また、「同窓会だより」第49号の発行、卒業4年後の同期会開催(65期生)、平成30年「会員名簿」の発行についての報告がありました。

東京、近畿、九州の各青陵会からの活動報告に続き、ご出席の恩師の先生方の紹介がありました。今回のご出席は永井裕(18代校長・19期)、大橋登史子(家庭)、渡邊展章(化学・4期)、福島隆壽(美術)、水間正雄(保健体育)、有馬博文(数学・32期)の各先生で、永井先生に代表でご挨拶いただきました。

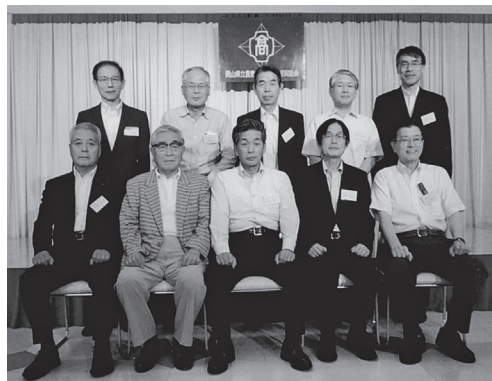
懇親会は、62期の石川絵梨さん、福井奈美さんによるフレッシュな乾杯の音頭で幕を開け、52期・蒲生(旧姓小山)麻衣子さんのグループによるベリーダンスが華やかな彩りを添えてくれました。

各テーブルでは、高校時代の懐かしい思い出に花を咲かせ、変わらぬ友情を確かめ合う姿がありました。学校・同窓会役員や当番幹事の記念撮影と続き、最後に来賓の東京青陵会会長で元青陵高校応援団長・武本幸寿さん(25期)の演舞で校歌斉唱。高校時代よりも大きな声で歌う同窓生の校歌が会場に響き渡りました。

徳田政太郎副会長(35期)の閉会の言葉で、盛況のうちに閉会しました。

来年もより多くの参加者による盛大な同窓会が開催されることを心から願っています。倉敷青陵高校、最高!! □…今回の当番幹事は、主に11、12、21、22、31、32、62期の皆さんが務めてくれました。ご苦労様でした。

岡田展弘副会長(前列中央)ら同窓会役員と正副校長ら



総会の席上行われた役員改選で、4期8年務めた加川英郎会長が退任、岡田展弘副会長が承認を得て四代目会長に就任しました。任期は2年です。水島信用金庫OBの岡田新会長は評議員、理事を経て副会長を5期10年務めてきました。

規約改正 理事会と評議員会の位置づけ明確に

同時に第12条の(4)(5)の規約改正が行われました。要旨は次の通りです。

[現行] 第12条の(4) 理事(会)は評議員の決定事項を協議、処理する。

第12条の(5) 評議員は本会の予算・決算を審議する。

[改正] 同(4) 理事(会)は緊急を要し評議員会を開催するいとまない場合は評議員会の権限事項を代行、後日評議員会に報告・承認を得る。

同(5) 新たに1~3項目に分け、会長が評議員を年1回以上招集、過半数をもって成立する評議員会の議長は会長とする。評議員会への附議事項として、規約の制定・変更、事業計画・収支予算、事業報告・収支決算など4件。

[改正理由] 理事会と評議員会の位置づけを実情に合わせて、整合性を果たせるために文言を加筆した。これにより決議の迅速性を高める。

四代目会長に岡田副会長(25期)を選任

本部同窓会では、これまでで一審の音頭を取りました。当番幹事の62期・石川絵梨さんと福井奈美さんのバレーボール部の元正副部長です。加川会長が、心配する周囲の声を押し切って起用したものです。



乾杯の音頭を取る62期の24歳フレッシュコンビ

24歳コンビ 乾杯の音頭

「きょうは付度なし」が受ける

「大いに...」の「付度」で「おう」と小さなどよめきが起きました。まずは成功でした。

24歳の2人は「いやあ、もう上がっちゃって...。いい経験になりました」と苦笑いしていました。タネ明かしをする、実は心配する周囲の声に付度して編集委員が台詞の台本を準備しました。社会人としても新人。石川さんは小学校に勤務する栄養士、福井さんは病院勤務の臨床検査技師です。職場でもいつか乾杯の音頭の役が巡ってくるかもしれないね。

ベリーダンス、演舞で華やかに



華やかな彩りを添えてくれたベリーダンス

〈土家(つちや)榎夫校長略歴〉 専門は数学。津山教頭、岡山朝日副校長、高梁校長など歴任。青陵21代目校長となる。総社市出身・在住。

〈表紙の写真 記念樹クスノキ〉 昭和62年、青陵創立80周年記

念樹として、前身の倉敷高等女学校跡地(鶴形1丁目)より移植した。その後整備した「憩いの広場」のメイン樹木として、体育館前で見事な枝ぶりを誇り生徒の成長を見守る。高さ約10m。樹齢は本校の歴史とほぼ同じ110年以上。今年は移植30年。

本部総会

友情は不滅です！
当番幹事さん ありがとうございます



11
期



12
期



21
期



22
期



31
期



32
期



62
期

本部同窓会事務局で10年にわたり事務局員、会計担当を務めた青陵高指導教諭・有馬博文さん(32期)が、平成29年春の異動で岡山一宮高に転任になりました。

経理担当者と相談しながら、毎年の予算書・決算書を作成、評議員会・理事会に報告、総会の承認を得る作業に携わりました。さらに、事務局員、主任を11年務めた船越勝さん(28期)も

**転任の本部事務局
船越さん、有馬さんに感謝**

2年前、総社南高に転任しています。

船越さんは本部同窓会と東京・近畿・九州青陵会との連絡調整、同窓会だよりの東京や近畿の原稿・写真、東京・本部九州の広告をまとめる作業をしました。

船越さん、有馬さん、同窓会発展のためにご尽力いただき感謝いたします。

東京青陵会総会に出席したメンバー。
武本新会長が誕生した



東京青陵会 (平成29年6月17日、東京・明治記念館)

会長 武本幸寿 (25期)

平成29年度総会は、来賓として倉敷から加川同窓会会長、青陵高校からは土家校長、同窓会事務局の林先生、恩師として水間先生 (体育)、倉敷市東京事務所から清水所長をお迎えし、約90人の出席をいただきました。皆様方に厚くお礼申し上げます。

今年度の開催にあたりましては特に21期の先輩方に、ご多用にも拘らず準備段階から参画いただき、また当日の式次第進行に大変なご尽力をいただきましたこと、あらためてお礼申し上げます。

総会議事として、新役員・規約変更の承認がありました。会長：武本幸寿(25期)、副会長：河崎孝夫(30期)、理事：北田和江(22期)、高橋祥二(28期)、原由紀恵(39期)、藤井達也(40期)、会計監査：山田裕之(40期)が承認されました。規約の変更では事務局を新たに設け、事務局長は日岡秀和(30期)にお願いすることにしました。任期は2年です。

懇親会では40期生による3年時の青陵祭カラー動画が放映され、短ランや長いスカート姿を懐かしく楽しむことができました。最後に20人以上が登壇し、陵歌「桜花爛漫」を熱唱後、全員で校歌を斉唱しました。

この様子はフェイスブック東京青陵会ページにアップされていますのでご覧いただくことができます。

東京で、しばしば母校青陵に「帰り」、皆様に元気をもち帰っていただくために、今後は新しい切り口でのおもてなしをしていきたいと考えています。特に若い層の皆さんが一年に一度、気軽に楽しく集える場づくりを役員の方々と一緒になってつくり出していきたいと思っております。

今回、長年東京青陵会の会長を務めていただいた関藤さん(25期)から四代目の会長職を引き継ぎさせていただきました。今まで積み上げて育んできた東京における青陵の集いを継承し、更に発展させていきたい気持ちでいっぱいです。多くの皆様のご参加を切望します。＝文中敬称略。

支部だより

新設の事務局長に日岡秀和さん(30期)



本部同窓会総会で校歌斉唱のリーダーを務める武本東京青陵会会長(8月6日)倉敷アイビースクエア

青陵時代は応援団長 武本

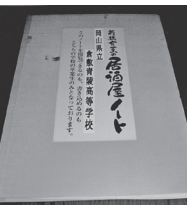
武本さんは岡山市の山陽映画(株)東京支社立ち上げなどに携わり、そのまま東京に在住しました。現在は環境啓発に関するトータルデザインカンパニーの役員をしています。8月6日には、倉敷での本部同窓会総会に来賓として招かれ、閉会前の校歌斉唱のリーダーを務めました。本部には正式なリーダーがいなかったため、フィナーレが盛り上がりました。

四代目会長に就任、「更に発展を」

こぼれ話

もしノートが存在しなかつたら恥? です。東京・新橋の居酒屋「有」に有る青陵高校の寄せ書きノート

を網羅しています。東京・新橋の居酒屋「有」にある青陵高校の寄せ書きノート



東京・新橋の居酒屋名物「高校寄せ書きノート」

ね。ちなみにノート第1号は福岡県の久留米大付高等学校です。店のお客が順次、高校時代の思い出や望郷の念を自由に書き、名刺を張り付けるというシンプルなおもしろいメッセージ集です。東京と古里をつなぐ架け橋となっています。この日、女将さんは出勤してなくて残念ながら会えませんでした。青陵のノートを開けてみました。青陵の正門の写真と校歌に続いて、メッセージのトップに「2010・1・6 倉敷を離れて20年：転勤人生ですが、母校の思い出は心の支え 山下清貴」とありました。平成22年(つまり7年前)に山下さん(41期)が秋岡孝也さん(11期)、日岡秀和さん(30期)と一緒に訪れ開設したそうです。その後、在京組や出張組など先輩・後輩約50人のメッセージがつづられています。東京青陵会とともに、もう一つ同窓の絆が深まるツールが酒場の片隅に存在しているのです。個人情報保護法によりファイルの管理が行き届き、母校の関係者以外には閲覧できません。皆さん、機会があればぜひ青陵のノートをのぞき、熱いメッセージを書き込んでください。

山下清貴さん(41期)ら50人がメッセージ

新会長の武本幸寿さんは役員歴はないものの、総会閉会前に歌う定番の陵歌、校歌斉唱のリーダーとして、ほぼ毎年出席しています。青陵在学中、応援団長、さらに立教大学でも応援団員として活躍した経験を買われたものです。天城との青天祭の同期の応援団長も東京にいて、今でも交流があり「青春」を分かち合っているそうです。



出席者は昨年よりやや減ったものの、盛り上がった近畿青陵会

近畿青陵会 (平成29年5月28日、大阪・太閤園)

参加者ひとこと

*小原康正さん (33期)

「仕事面でややゆとりができ、会社以外の交流を求め初参加しましたが、同期はいませんでした。先輩たちの生き方を学ぶよい機会なので来年は同期にも声をかけます。部活は野球部でしたが2年生からサッカー部に転部しました。医療・医薬品に特化した広告代理店に勤めています (大阪府守口市在住、倉敷市出身)

*水野(旧姓徳永)知美さん (47期)

「案内状をもらい初めて参加しました。同期は私一人で多分一番若くて、先輩ばかりでしたが楽しめましたよ。部活は中学時代に続いて吹奏楽部でクラリネットを担当していました。今はNPO法人の非正規職員として週3回お仕事を、2人の子育てと両立させています (兵庫県在住、倉敷市玉島出身)

30期 澤田(旧姓五十嵐)圭子

今年の近畿青陵会は、来賓としてご出席いただいた土家榎夫校長、同窓会本部加川英郎会長(4期)、今岡道雄副会長(13期)、事務局の林俊輔先生(28期)、恩師の小山裕章先生(音楽)、水間正雄先生(体育)をはじめ総勢72人のご参加をいただきました。恒例の記念写真撮影後、中原(旧姓平野)明子さん(30期)の司会のもと、大水勇近畿青陵会会長(14期)の開会の挨拶で総会が始まりました。まず、設立日記載と誤植修正のための近畿青陵会会則改定案が大月修会計幹事(19期)より提案され、審議後、可決されました。続いて、会計報告を大月修会計幹事、監査報告を御手洗(旧姓南條)伸子會計監査(30期)よりいただき、いずれも承認されました。

初出席 森京大教授(28期)がスピーチ

懇親会の部では、土家校長よりご挨拶をいただき、母校の高い進学実績やスポーツ・文化クラブ活動実績などについて報告いただきました。来年の創立110周年を素晴らしい年にしたい」という言葉に熱く力強い決意を感じました。加川同窓会会長からは、「同窓生の連携を密にするためには、本部、東京、九州はもちろん近畿青陵会が盛会となるよう今後もしっかりアツクします」との心強い挨拶をいただき、今岡同窓会副会長の発声による乾杯で宴がスタートしました。現在の青陵高校の学校紹介や青陵祭ダイジェストDVD、陵歌が流れ

和やかに歓談が進む中、テーブルごとに参加者からの一言コメントをいただきました。今年にはわが子や孫のような60期生の一言に熱い視線が集まりました。終盤は小山先生の指揮で恒例の校歌を斉唱。担当幹事謝辞、次期幹事紹介と続き、最後に赤沢陽治近畿青陵会副会長(18期)から挨拶をいただき、遠路はるばるお越しいただいた来賓、恩師の方々には幹事一同より感謝申し上げます。2時間半の懇親会は終始和やかな楽しい時間になりました。ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

中、小山先生はもうすぐ90歳を迎える今でも吹奏楽やコーラスの指揮を続けておられること、水間先生からは、度々出かけるスケッチ旅行で、「スケッチだけではなく人との出会いも旅の楽しみ」というお話をいただき、恩師の元気あふれる様子に会場の皆さんは感心しきりでした。参加者全員に水間先生から自作の絵はがきのプレゼントがあり、中には開会前に似顔絵を描いてもらった人もありました。また、小宮幸久さん(24期)から、昨年の同会でご講演いただいた大森青児監督の映画「家族の日」の後日談をしていただきました。皆さん興味深く聞いて、そのスライドに注目が集まっていました。さらに急ぎよスピーチをお願いした初出席の森和俊京大教授(28期)からは学生時代や研究のお話があり、教授の研究に対する熱い思いが会場の皆さんに伝わったようでした。

軟庭で人見絹枝組に敗れる

こぼれ話

日本女子陸上界のパイオニアで、日本女子初の五輪メダリスト人見絹枝さん(1907~1931年)と高女時代、軟式庭球(ソフトテニス)県大会で対戦した人がいます。倉女18期の佐藤(旧姓難波)紀代さんです。佐藤組は学年や体格が違い敗れましたが、佐藤さんは平成18年12月、新聞にその貴重な思い出をつづりました。その後、故人となられました。以下投稿全文を引用し、佐藤さんと人見さんをしのびます。

山陽女子ロードレースは第二十五回大会が無事終わりました。「人見絹枝杯」の十^{キロ}でも熱戦が繰り広げられました。生きておられれば、来年は百歳になられるはずの人見さん。私は八十年余りも前に握手した時の彼女の手のひらのぬくもりを忘れることができません。

倉女18期 故佐藤(旧姓難波)紀代さん

軟式庭球女子の県大会が新聞社の主催で岡山で開催された日、私は倉敷高女(現倉敷青陵高)の三年生で初出場、彼女は岡山高女(現岡山操山中高)の五年生でした。共に前衛としてネットを境にコートに立ちました。

背の高い彼女は「オーライ」の掛け声も大きく、右に左に前に後ろにと大活躍です。私たちは手も足も出ません。散々の敗北でした。試合が終わって握手した時、私の涙が彼女の手にかかりました。

「泣かないで。よくやったよ」と一言。そして、固く握りしめてくださったのです。ありがとう、人見さん。私は九十六歳で、まだ生きてますよ!

(山陽新聞平成18年12月28日付「ちまた」より)

人見絹枝 岡山市に生まれ、岡山高女時代は軟式庭球選手として県大会や関西大会で活躍したが、周囲の勧めで陸上競技に転向した。100^{メートル}、200^{メートル}、走り幅跳びの世界記録を樹立。アムステルダム五輪では金メダルを狙った100^{メートル}で敗れ、未経験の800^{メートル}で銀メダルを獲得、世界の陸上界に名を残す。24歳で肺炎のため死去。今年是人見生誕110年。

涙が彼女の手に……泣かないで

九州青陵会

(平成29年10月21日、福岡・西鉄グランドホテル)



1年ぶりに顔を合わせ話が弾んだ九州青陵会の皆さん

母校や倉敷界隈の変貌ぶり聞く

本部同窓会から岡田会長、学校から池本副校長、林先生がかけつけ、計20人が出席しました。浦手九州青陵会会長をはじめ女性も6人加わり、女性の軽妙な司会で進行。学校の現況、青陵や倉敷界隈の変貌ぶりに耳を傾けていました。例年、現役大学生のフレッシュな顔がありました。今年も残念ながらありませんでした。中に息子さん連れの参加者がありました。スピーチの中で、福岡に「青陵」の名を冠した街の名がある一との話に、一同興味を持ち、年代を超えて和気あいあいと談笑しました。

守屋嘉子さんが寄贈した書の力作「蔵」



寄贈

長崎県長崎市で書家として活躍する守屋(旧姓戸田)嘉子さん=4期=が平成29年2月、青陵高校へ力作の1点「蔵」(縦・横90釐)を寄贈しました。3年ほど前の倉敷の合同展に

この道45年、長崎で活躍する書家 守屋嘉子さん(翁)力作を母校へ

出品した作品です。

守屋さんは書道が好きで、青陵時代に書道部部长を務めました。結婚、育児の最中、37歳で夫と死別するという悲しみを乗り越え、勤めながら再度書と取り組み45年の年輪を刻みました。

長崎県美術協会県展審査員、同県書道展常任理事など多くの書道団体の審査員や役員を務め、その間、毎日書道展特選、長崎県展長崎市長賞など多数の賞に輝きました。今も自らの個人塾で後進の指導に当たっています。

守屋さんは「作品がたくさんたまったので、恐縮ながら母校に寄贈を申し出ました。『蔵』は倉敷の白壁の蔵をイメージして書いた草書です。母も倉女14期でしたので母校には愛着があり、寄贈をお受けいただき大変光栄に思います」と話しています。

守屋さん、ありがとうございました。

寄稿

6期 吉岡 謙

私は昭和27(1952)年4月に入学した。私達一年生が入った教室は当時の校舎の南の端。体育館の東側に新築された木造の二階建ての校舎で、各階に4教室ずつあったと思う。教室に入って一番最初に気付いたことは、放送設備のスピーカーがないことであつた。中学校にあつたものが高校にないわけ、なんとも不思議な気がした。当時始業・終業の合図は用務員さんによる振鈴で行われていた。現在の学校の教室には必ずスピーカーが設置されている。校内



顧問の先生にこのことを話すと、「本当か?」と驚いてはいたが、「どうにもならん」との返事だつた。それならば新築校舎の教室に自分でスピーカーを取り付けて放送室から新校舎まで配線するしかない、放送委員会から予算請求をして認めてもらった。スピーカーやスピーカーボックス、配線用のゴム線(まだビニール線やVVFケーブルなどはなかった)、クリート碍子(がいし)、ブラックテープ(まだビニールテープはなかった)、木ねじなどを買って、毎日放課後に廊下から教室の壁にはしごを立てかけ、自分のドライバーやペンチを使って、クリート碍子にゴム線を挟んで引つ張つて木ねじで止めるという作業を繰り返した。放送設備工事の経験など全くない一

新校舎に放送設備工事 入学直後から孤軍奮闘し実現

放送は勿論、始業・終業の合図のチャイムもスピーカーから流れてくるのが当たり前。防災面からも放送設備の設置が義務付けられている。

入学後しばらくして学級委員の選挙があり、私は放送委員に選ばれてしまった。教室にスピーカーがないのに放送委員というのは一体どういうことをする委員なのか分からず、顧問の先生に尋ねたら、職員室の西端の宿直室の廊下側にある放送室に連れて行かれて放送設備を見せてくれた。

アンプのそばのスイッチ盤には校舎単位で放送できるようにスイッチが並んでいたが、我々一年生が入っている校舎へのスイッチはなかった。校舎にはスピーカーが付いていないので、当然、校舎への放送配線がないことも分かった。

年生の素人が一人でやるのだから工事ははかどらず、手には「まめ」ができてはつづれ、を繰り返した。かなりの期間かかって、ようやく配線を放送室まで引き込み、スイッチ盤へ繋ぎ込んで試験放送をした。新校舎のすべての教室のスピーカーから音が出た時の喜びは、私の人生で経験した喜びの中でも大きなものの一つだつたように思う。

その後は放送委員として、校内放送で昼休みなどにレコードをかけたたりした記憶がある。私は同30(1955)年に卒業。29年後に息子が入学して最初に入った教室が、私が放送設備工事をした校舎の教室だつたようで、不思議な縁であつた。

□:吉岡さんは在学中、無線科学部でした。長男純さんは38期、長女恵美さんは41期です。

黒田和生さん(18期) サッカー台湾代表監督に就任

平成29年の年が明けたころ、黒田和生さん(18期)が、前年秋にサッカー台湾代表監督に就任！というビッグニュースが飛び込んできました。タイミング良く、2月に岩田正晴さんら同期生4人が旅行を兼ねて訪台、黒田さんと旧交を温めました。岩田さんが特派員よろしく、黒田さんにインタビューしてくれましたので、その内容を紹介します。

日本のサッカー隆盛を支える

◎…… 訪台の同期生がインタビュー……◎



黒田さん(中央)のサッカー台湾代表監督就任を祝う同期生(平成29年2月、台湾・台北市)

名門の東京教育大で副主将

—お久しぶり。台湾代表監督就任おめでとう。青陵、大学時代の話から聞かせてよ。

うん、中学時代の野球をあきらめて、青陵でサッカー部に入り取り組んだのが最初よ。1年先輩の木原拓さんにしっかり基礎をたたき込まれ、翌年の県新人戦で初優勝という奇跡を起こした。入学した年の秋に東京五輪があり、サッカー日本代表の活躍でサッカーブームが起きたが、岡山はそうでもなかったので、「これじゃあおえん、岡山のサッカーを強くせんと」という大胆な野望(笑い)から、大学サッカー界の名門で関東大学リーグの東京教育大(現筑波大)に進学。さすがに全国から集まった精鋭のレベルは想像以上に高くて、高校時代のFWの技術は全く通用せずDFに転向した。努力してリーグ2連覇、大学選手権優勝、4年時に副主将という貴重な体験をしたねえ。

岡崎慎司選手ら日本代表4人育てる

—卒業後は(市民サッカークラブの)神戸FC職員から新設の滝川二高教諭・監督になったよな。

大学時代の「全国の校庭に一つでも多くのゴールを立てよ」という部訓に従い、少年サッカーの普及、発展に努めた。「楽しく練習しよう」を合言葉にね。幸い、神戸は戦前からサッカーが盛んで、多くの先輩に指導のイロハを教わる幸運に恵まれた。12年が過ぎたころ、滝川二高から話があり、「専用グラウンドを備える」という好条件に飛びつき35歳で思い切って転職した。「怯まず驕らず澁刺と」をモットーに、ひたすら全国大会を目指した。おかげで、在任23年間で30回以上全国へ行った。全国高校選手権はベスト4、高円宮杯全日本ユース選手権で、ついに優勝を経験した。Jリーガー45人以上、そのうち岡崎慎司選手ら日本代表4人が生まれた。学園の理解、保護者の協力もあって全国有数の強豪校に育ってくれたんよ。

—その実績を買われ、J1のヴィッセル神戸からお呼びが

かかった。

うんまあ、普及育成事業本部長という立場でね。ユース(U-18)の監督も務め、世界に通じるたくましい選手を育てる努力をして、5年目に契約満了で退任した。

東京五輪? 今は何とも言えない

—さらに5年前、台湾へ飛躍した。

チャイニーズタイペイ(台湾)協会のユース育成統括、U-13・18代表の監督を務めたんよ。実は今回の台湾代表監督は断り切れずに引き受けたが、受けた以上は最善を尽くすつもり。こちらに来てから内臓系の手術を3度受け、「人生は一度きり」と強く思うようになったのが決断の根拠よ。(3年後の)東京オリンピック(出場)? うーん、監督としての契約、その間の成績、自分の体力などいろんな条件があり、今は何とも言えんなあ。

サッカーライフ50年 すべてが青春

—青陵入学から今日までサッカー人生50年。日本の今日のサッカー隆盛を支えたと思う。振り返って思うことは?

技術だけでなくスポーツマンシップ、ピッチを離れてからのマナーも教え込んだよ。神戸FCまでが第一の青春、滝川二高時代が第二の青春、今の台湾が第三の青春、つまり僕にとってはサッカーライフすべてが青春よ。日本の今日のサッカー隆盛を支えたかどうかは分からないが、サッカーを「笑顔とリスペクト」のスポーツとして、さらに教育、健康、国際交流のために今後とも「顔晴(がんば)る、よ(笑い)。

—はい、どうもありがとう。さあ黒田に乾杯! みんなで景気よう飲もうで。

□…黒田さんは青陵創立100周年記念誌に投稿しています/著書「トモニコウ」は青陵図書館に寄贈されています。

黒田さんは平成29年夏、発病により台湾代表監督を退任、帰国して療養中です。神戸市在住。

日本有数のピアニスト 松本和将さん(49期)

倉敷音楽祭でチェロ奏者と絶妙の呼吸で演奏する
ピアノの松本和将さん=倉敷市芸文館



磨き抜かれた絶妙の音色

「倉敷音楽祭は今回で31回ですね。年々盛り上がっていますが、(客席を見渡して) 僕の予想では来年は満席、その次から3日連続公演、さらに…」と、冒頭のステージあいさつで軽いジョークを飛ばし聴衆の肩をほぐしてから演奏に入りました。ピアニストとして活躍する松本和将(かずまさ)さん=49期=です。

三十代の若さながら日本トップクラスにある松本さんが、平成29年3月18日、倉敷市芸文館を中心に開催された倉敷市制50周年記念倉敷音楽祭に5回目の出演をしました。

今回は同じ倉敷市出身の守屋剛志さん(バイオリン)や岡山市出身の河本直樹さん(コントラバス)など、岡山ゆかりの気鋭の演奏家を中心に編成した室内楽コンサートでした。

メイン会場の市芸文館でのステージは同音楽祭の「華」。

ラフマニノフの「悲しみの三重奏曲第1番」「チェロソナタト短調」、さらにシューベルトのピアノ五重奏曲「ます」を約2時間たっぷり演奏。松本さんのリードで2~6人が息もびったり磨き抜かれた絶妙の音色を披露しました。

クラシックファン約540人が、洗練されたメロディーを静かに、居眠りなどする暇もなく(失礼)聞き入り、はっと気づくと終演。心地良い緊張感の中で豊かな気持ちになれた至福の時間でした。

幼少のころから自然にピアノに魅せられ6歳で本格的に始めた松本さんは、東京芸術大学からドイツに留学、ベルリン芸術大学を卒業。日本音楽コンクールで優勝した19歳ごろからプロ演奏家として活動を始めました。

得意とするベートーベンやブラームスなどのドイツ物をはじめショパンなどの作品をもってソロ活動、オーケストラとの共演、さらにピアノトリオを結成して室内楽にも取り組むなど全国で幅広く活躍する傍ら、CDをこれまでに17枚リリースしています。

倉敷音楽祭に5回目の出演

この道に入って31年、プロになって18年。円熟期に入る松本さんに終演後お会いして、自分の持ち味を尋ねると「ドイツ仕込みの堅実な構成力ですかね。曲調は「情熱的、と言われます」と自己分析。青陵生へのメッセージとして、「ロボットが人間の仕事を奪うような時代になりましたが、考える力を養いそれを最大限生かしてクリエイティブな仕事を目指してください」との熱いエールをもらいました。

舞台女優・旺なつきさん(元タカラジェンヌ)らと並ぶ異色の卒業生、松本さんの益々のご活躍をお祈りします。

□…松本さんは倉敷市出身、東京都在住。現在、くらしき作陽大学特任准教授です。



倉敷で生まれ岡山県内外はもちろん海外でも活発に活動するアマチュアのジャズバンド「カウントハード・ジャズオーケストラ」が平成29年、めでたく結成50周年を迎えました。

このバンドを率いるのがトランペット奏者の松井大圓さん(17期)です。青陵時代に仲間と立ち上げ、国立音楽大学器楽学科を卒業。バンドの柱として長年リーダーとバンドマスターを兼ねています。バンド歴もトランペット歴も半世紀、この世界では知る人ぞ知る存在です。

全国でも特異なバンド
結成50年

編成はトランペットやトロンボーン、サクソにドラム、ピアノ、パーカッションなどフルバンド。レパートリーは、ロッキーのテーマ「ゴナ・フライ・ナウ」で有名なアメリカのトランペット奏者メイナード・ファーガソンの曲が中心です。

活動も多彩で、これまでにアメリカのディズニールランドで演奏、第1回Kurashiki Summer Jazz Festival(K.S.J.F)で、憧れのメイナード・ファーガソンオーケストラとジョイントライブ、オーストラリアとニュージーランドへ演奏旅行を敢行するなど、国内外のビッグアーティストと次々共演。26回目を迎えたK.S.J.Fが同年8月26日、倉敷アイビスクエアで開かれ、多くのジャズファンを魅了しました。

かつては中学・高校の音楽鑑賞会、ハートランド倉敷(5月)には第1回から毎年出演するなど地域の文化振興にも貢献しています。

活動費はメンバーの会費と出演料で賄っていますが、大規模活動だけに大変です。メンバーは男女27人で二十

25回目のKurashiki Summer Jazz Festivalの
白熱したステージ(ステージ左が松井大圓さん)
=平成28年8月、倉敷アイビスクエア



代から七十代と幅広く、教員やJA職員、自営業などさまざま。時間をやり繰りして週1回の練習にかけつけます。

松井大圓リーダー(17期)ら
青陵OB・OG 11人活躍

実はメンバーにはゼネラル・マネージャーの鴨井績さん(18期)のほか、松井さんに基礎を学んだサクソの遠藤浩さん(31期)や石原鈴華さん(64期)ら青陵卒業生が11人もいます。

住職兼幼稚園長の松井さんは「小さいころ、お寺になぜか軍隊ラップがあってね、吹くと音が出たんですよ。これが狂った元凶」と笑いながら、「県内、いや全国でも特異なバンドですよ。滅多に聴けない音楽を聴いて心豊かになっていただくのが願いです」と愉快地話してくれました。

アマ
カウントハード・ジャズオーケストラ(倉敷)

「倉敷の老舗」を訪ねて ③

創業は古く明治18年。庭師の初代民造さんが香川県三豊郡（現三豊市）で造園業を営んだのが始まりです。大正時代、当時から仕事に来ていた倉敷に二代目嘉之助さんが移住して広島や兵庫など県外にも顧客を広げました。



自社ビルの前に立つ四代目大山雅章社長

県内造園界屈指の多彩な実績

明治18年創業 老龍園緑化(株)

大山雅章 社長 (28期) =倉敷市中島=

「立教大学を出て測量の専門学校に通い、建設コンサルタント会社で営業職を15年以上経験しました。40歳ごろかな、帰郷して父の跡を継いで社長になりました。父の使う（吊り上げ装置の）チェーンブロックを子守歌のようにして育ったんで、いま振り返ると家業を継ぐ気持ちがかんの中にずっとあったんでしょねえ」

創業132年を誇る造園の老舗、老龍園緑化(株)の四代目・大山雅章社長は半生を振り返ります。会社は国道429号線中島口交差点そばにあり、2棟のビルを構え、年商は1億1000万円（平成28年）にのびります。



父の代から老龍園緑化がすべて手掛ける倉敷・中島小校内の緑化

大山さんの父で三代目誠一さんが会社組織にして(尙老龍園を設立、昭和52年、造園・土木・設計の体制を整え現社名に変更しました。誠一さんの知人が「昇龍のように立派な造園会社に」との思いを込めて命名してくれました。誠一さんは創業90周年記念誌のあいさつで「岡山県造園界ナインの折紙をいただいております」と矜持を示しています。

受注は現在、市内を中心に県南に絞られました

が、高度成長期、工場緑化が盛んに行われ、川鉄（現JFEスチール）や三菱など水島に立地する多くの企業の緑化をはじめ、倉敷市役所などの官公庁、市内の小中高校、さらに民家の庭づくりなど幅広く手掛けてきました。大山社長の母校の中島小や南中、青陵高校の緑化も一手に引き受けています。

技術的にはモミジや（根株から幹の出る）株立ち植物のように洋風を採り入れるなどニーズの変化に対応しています。

従業員10人のうち8人の職人（庭師）が腕を振るいますが、大山社長は「若い人にこの道に入ってもらいたいんですが、求人しても厳しい状況です。五代目？ うーん息子はいますが、東大の理系大学院に在学中で、まず無理です。そのうち本気で後継者を考える時が来るでしょうね」と、ちょっと老舗を守る悩みを語っていました。

全国でも十数社、布団づくりの灯守る

明治28年創業 金森(株)

金森秀子 会長 (10期) =倉敷市水島=



老舗を誇る看板の前で語る金森秀子会長

可の全日本製綿工業組合連合会の指定工場となり、何回でも打ち直せるJIS規格の「金鶴きんつる」わたで作った布団を全国の問題屋に卸しました。

父の跡を継いだ三代目金子さんが経営理念を定め、誠実な仕事、品質の確保、納期の厳守を信条に堅実経営を展開しています。

作業は機械化されていますが、30人を超える従業員が製綿から縮入れ、側縫じ、キルティング加工、検品など10以上の工程をこなして丁寧に仕上げます。

現在は問屋への卸しはほとんどなく、商社から依頼される加工、大型店からの依頼、それにネット通販が主流になりました。年間に生産する布団は十数万枚にのびります。

同社は親子孫三代で老舗をしっかり守ってきました。金森さんは32年務めた社長業を平成28年、

布団を作る人、着て寝る人、

関わる人すべてに「喜ばれる」を経営理念に据え、素材選びや仕上げに細心の注意を払いながら寝具製造を続けて122年になる会社があります。倉敷市水島の金森(株)です。

巨大工場の連なる三菱自動車工業水島製作所のそばにあり、創業者の孫・金森秀子さん(10期)が会長を務めています。

金森会長の祖父千代次郎さんが明治28年、生産していた備中綿を使い、連島町西之浦で製綿業を起したのが始まりです。昭和になって二代目の父幹夫さんが布団づくりに転換して水島に工場を移転。昭和25年に株式会社組織変更しました。

通商産業(現経済産業)省認



キルティング加工など丁寧な作業をする金森(株)の工場

次女の小塩由希子さんに譲って会長になりサポートしています。

伝統産業によくある後継者難の悩みはないようです。

社長になって間もなく倉敷商工会議所議員になり、

常議員も数年務めた金森会長は「布団メーカーは県内では数社、全国でも十数社になりました。安い中国製品や価格の下落と闘いながら苦労してきましたが、長年続けてきた布団づくりの灯は絶やしたくないですねえ」と話していました。

最近「良質な睡眠」が求められています。同社は時代をくみ取った寝心地の良い布団づくりが余念がありません。

前号に引き続き連載「倉敷の老舗」を訪ねて」の第3弾をお届けします。今回は岡山県内でも有数の造園業「老龍園緑化」と寝具製造「金森」を訪ね、老舗を支える同窓生の奮闘ぶりをレポートしました。(掲載は原則として倉敷市よりの感謝状受賞順です)

学生生活校

生徒指導課長
前花直哉



青陵ピカピカ大作戦



青陵祭文化祭の部オープニングの書道部パフォーマンス

毎年、5月と10月の中間考査最終日に青陵ピカピカ大作戦（SPD）と称して清掃活動を行っています。5月は500人、10月は300人を超える生徒が参加、学校周辺の清掃を行いました。

テスト勉強の疲れも見せず黙々と清掃活動に取り組む姿は、たくましく感じられました。

ピカピカ大作戦、青陵祭、部活で中国・全国大会出場

平成29年9月6日～8日には、生徒たちにとって最大のイベントである青陵祭が行われました。文化祭の部は、体育館のステージ発表、展示、野外ライブ、模擬店などで大いに盛り上がりました。

体育祭の部では、1年生から3年生までを縦割りに8つのブロックを編成し、競技の部・ブロック演技の部・アーチの部・行進応援の部で競い合いました。

その中でもブロック演技は1ブロック120人全員で行われます。これほどの人数での演技は他校にはない青陵名物です。全体練習の期間は1週間ですが、与えられた環境の中で常にベストなものを創りだそうと一生懸命に取り組む姿は見ていても気持ちのよいものでした。

3年生はリーダーシップを発揮し、1、2年生は3年生の気持ちに伝えようとハッスルしてくれます。友との絆を深める絶好の機会となっています。本番では壮大な演技が披露されました。

今年度も「文武不岐」の精神のもと、勉強と部活動の両立を実践して多くの部が、県内はもちろん中国大会や全国大会へ県代表として出場するなど以下の通り活躍しました。



体育祭の部ファイナーレの校歌大合唱

全国女子駅伝 激走岡山準V

あわや大逆転優勝！ 都大路を揺るがし岡山県民をテレビにくぎ付けにした平成29年1月15日の第35回全国都道府県対抗女子駅伝の岡山チームは、堂々の準優勝を飾り3年ぶり表彰台に立ちました。

チームは20位スタートながら上位との差はあまりなく、9人抜き、7人抜きで一気に4位に浮上。中盤から後半はやや順位を落としたものの、降りしきる雪を切り裂いて力走しました。8位でタスキを受けたアンカーの主将・小原怜選手は倉敷市出身の驚異的なエースの走り、先行する京都をゴールテープの手前まで追いつき2位をもぎ取りました。このチームを指揮したのが青陵高校教諭（保健

広瀬洋介監督（青陵）の作戦ズバリ

体育の広瀬洋介監督（岡山陸上競技協会強化委員長）は写真です。前半でしっかり流れをつくり、後半踏ん張って最後は大黒柱の小原で勝負するという作戦が見事奏功。思惑がずばり的中しました。

たのも勝因のひとつ。選手のおかげで好成績が残せました」と喜びを語りました。広瀬先生が監督になって3年。18位、11位と成績を上げ、今回の好結果につながりました。「県民をはじめ京都岡山県人会の皆さんに大変喜んでいただき、感謝しています」と広瀬監督。

本紙第49号が発行され、年が明けて間もなくすれば第36回大会の号砲です。8年ぶりの頂点を期待しています。



グをして臨んだ広瀬監督は「充実したメンバーが想定通りに走り、全員が力を発揮して役割を果たしてくれました。故障者がいなくなっ

□：広瀬監督は新見・大佐中時代は野球部、勝山高1日体大では陸上短距離（100m、200m）でインターハイや国体で活躍しました。岡山チームは同月28日、山陽新聞体育賞（特別賞）を受賞しました。

平成28年度末の主な教職員異動

〔転任〕

真備陵南	校長	石田 桂子（二七年）	教頭	長 石田 桂子（二七年）
早島支援	教頭	岩本 恭治（二五年）	指導教諭	有馬 博文（一九九年）
岡山一宮	指導教諭	郷原 宏章（一九九年）	指導教諭	郷原 宏章（一九九年）
岡山御津	指導教諭	小原 純一（二六年）	指導教諭	小原 純一（二六年）
岡山安中寺	指導教諭	林 倫理（一九九年）	指導教諭	林 倫理（一九九年）
瀬戸	指導教諭	秋山 倫理（一九九年）	指導教諭	秋山 倫理（一九九年）
岡山東支	指導教諭	高森 志帆（二五年）	指導教諭	高森 志帆（二五年）
倉敷商業	指導教諭	金山 裕子（二〇年）	指導教諭	金山 裕子（二〇年）
笠岡商業	指導教諭	松尾 美紀（二八年）	指導教諭	松尾 美紀（二八年）
高松農業	指導教諭	輝幸（二三年）	指導教諭	輝幸（二三年）

校長に土家氏、教頭泉氏 石田教頭 真備陵南校長に

〔署任〕	校長	土家 慎夫（高）
教頭	泉 浩明（笠岡）	
教諭	村上 裕亮（倉敷工業）	
教諭	河内 一郎（岡山朝日）	
教諭	佐藤 宣多（岡山芳泉）	
教諭	人見 純司（岡山一宮）	
教諭	尾崎 基文（津山商業）	
教諭	小脇 友洋（倉敷商業）	
教諭	若林 美奈（津山）	
教諭	三浦 菜摘（新採用）	
教諭	濱中 直子（新採用）	
教諭	仲達 大輔（新採用）	
教諭	河野 公介（新採用）	
教諭	河野 理宏（新採用）	
教諭	富本 雅哲（倉敷商業）	
教諭	岡本 利幸（倉敷商業）	
教諭	岡本 一江（高）	
教諭	田中 尚（二五年）	

進路状況

東大・京大など
難関国立大学に

37人

地元
岡山大学に

84人

全国の
国立大学に

246人

関関
同立に

141人

2017年 大学合格実績

難関国立大学

東京大	2
京都大	3
大阪大	11
九州大	13
東北大	1
神戸大	7
合計	37

国立大学

筑波大	4
お茶の水女子大	1
東京学芸大	1
信州大	2
静岡大	2
京都教育大	1
奈良教育大	1
鳥取大	4
島根大	3
岡山大	84
広島大	8
山口大	6
徳島大	11
香川大	19
愛媛大	12
兵庫県立大	5
岡山県立大	12
その他の大学	70
合計	246

国立医歯薬

医学科	4
歯学科	2
薬学科	3
合計	9

岡山大学 学部別

法学部	5
経済学部	6
文学部	7
教育学部	20
理学部	4
工学部	19
環境理工学部	6
農学部	4
医学部医学科	2
医学部保健学科	8
薬学部	1
マッチング・プログラム	2
合計	84

主な私立大学

慶応大	5
中央大	2
東京農大	4
東京理大	4
明治大	5
早稲田大	10
同志社大	37
立命館大	63
関西大	19
近畿大	32
関西学院大	22
京都産業大	3
京都女子大	7
岡山理科大	38
川崎医療福祉大	22
ND清心女子大	68

主な大学の合格状況

英語は4技能(読む・書く・話す・聞く)をバランスよく測るため、民間の検定試験へと段階的に移行することが検討されています。これに先がけて各大学の個別入試は改革が進んでおり、推薦・AO入試の募集定員が増えたり、入試問題で問われる学力の質が変わってきたりしています。生徒には各教科の「知識・技能」を身に付け、「思考力・判断力・表現力」を磨き、さらには「主体性をもって多様な人々と協働して活動する」経験を積むことが必要になっており、高校はこれまでの授業観からの脱却や教育課程の見直しに迫られています。

青陵高校ではこのことを理解し、従前から教科指導や進路指導の研究・改善に努めてきました。授業では、どの教科でもベアトリークやグルーブデイスカッション、発表などのアウトプットの機会が増え、「総合的な学習の時間」では、校外での体験的な学習や課題解決型の探究的な学習を行っています。

進路行事として、20年以上前から継続している企業訪問「Future Watching」や3年前から実施している岡山大学による学部学科説明会「Dream Project」などは、生徒が自身の進路について考える契機になっています。

また今年度は、大学の学びに触れる機会として行う模擬講義の講座数を増やし、8月初めに大阪大・九州大・神戸大から3人、11月末に東大・京大・慶応大から9人の先生方をお招きしました。このような種々の経験が生徒の意欲を高め、高質な学力の養成につながっていくと信じて、より一層、進路指導の充実に努めてまいります。

OB・OGの皆様には、ご理解・ご支援をよろしくお願いたします。

東大や京大の先生12人 模擬講義 体験的、探究的な学習を進める

現在、大学入試を取り巻く環境は大きく変化しています。グローバル化や情報化といった社会の変化が知識偏重の学力観に疑問を投げかけ、大学入試と高校教育の変革を促しているということができると思います。

「大学入試センター試験」は2020年に「大学入学共通テスト」へと名称変更し、国語と数学で記述式問題が導入され、

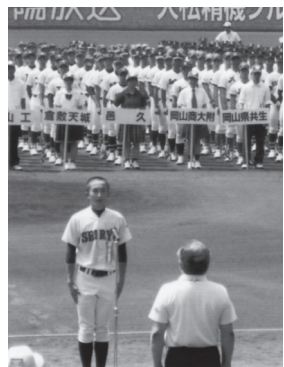
しに迫られています。

青陵高校ではこのことを理解し、従前から教科指導や進路指導の研究・改善に努めてきました。授業では、どの教科でもベアトリークやグルーブデイスカッション、発表などのアウトプットの機会が増え、「総合的な学習の時間」では、校外での体験的な学習や課題解決型の探究的な学習を行っています。

進路行事として、20年以上前から継続している企業訪問「Future Watching」や3年前から実施している岡山大学による学部学科説明会「Dream Project」などは、

最後の瞬間まであきらめない!

堂々と選手宣誓をする青陵の藤沢孝介主将=平成29年7月14日、倉敷・マスカットスタジアム



夏の甲子園を目指して平成29年7月14日に倉敷市のマスカットスタジアムで開幕した第99回全国高校野球選手権岡山大会開会式で、青陵の藤沢孝介主将(3年)が、出場59校を代表して大会を盛り上げる選手宣誓を力強く行い、スタジアムに広がる快晴の空に気合の入った声を響かせました。

宣誓が決まったのは6月の組み合わせ抽選会の席上でした。藤沢主将は「その瞬間は信じられなかった」と驚いたようですが、「こんな経験は限られた人にしかできない」と前向

最後の瞬間まであきらめず青春の1ページとして心に深く刻み、この夏を自分史上最高の夏にすることを誓います。

夏の甲子園を目指して平成29年7月14日に倉敷市のマスカットスタジアムで開幕した第99回全国高校野球選手権岡山大会開会式で、青陵の藤沢孝介主将(3年)が、出場59校を代表して大会を盛り上げる選手宣誓を力強く行い、スタジアムに広がる快晴の空に気合の入った声を響かせました。

宣誓が決まったのは6月の組み合わせ抽選会の席上でした。藤沢主将は「その瞬間は信じられなかった」と驚いたようですが、「こんな経験は限られた人にしかできない」と前向

夏の高校野球岡山大会開会式 創部初、藤沢主将が選手宣誓

きにとらえ、チームメートと相談しながら入念に準備しました。

本番では早くからネット裏に詰めかけた土家槇夫校長や野球部員の保護者、生徒、OBらが注目する中、中学時代の生徒会長の経験を生かして、2分間にわたる宣誓を堂々とこなし、無事大役を果たしました。青陵の名を県内高校野球ファンにアピールしたのです。

同日のテレビ各局はニュースで藤沢主将の宣誓を半日以上繰り返し放映しました。改めて、選手宣誓の役割の重要性を認識しました。

宣誓はかつてシード校の主将が担っていましたが、最近は全出場校の中から抽選により決まります。平松利文監督は「(宣誓は)おそらく創部以来初めてでしょう。藤沢主将は3日ほど練習して臨みました」と話し、土家校長は「他校の校長から『宣誓の内容が豊富で良かった』と賛辞をもらいましたよ」と喜んでいました。

なお、試合は翌日、いきなり古豪倉敷工と当たり、健闘むなしく1対11で敗れ4年ぶりに初戦敗退となりました。



木堂が青陵高校(当時精思高女)に贈った書を解説する
書道部員＝岡山市の犬養木堂記念館

青陵所蔵の木堂遺墨を解説

いつも書に接しているという特性を生かして、美術館の書の解説に取り組んでいる青陵高校書道部は、平成28年12月から翌年1月にかけて岡山市の犬養木堂記念館で新春特別展「高校生が語る木堂の書」に参画しました。木堂展は同25年に次いで2回目です。

木堂の遺墨29点を取り上げ、書風、年代順、手紙、小品の4部門に分けて考察。作品を1点ずつ読み解き意味と解説、感想を書き込んだ説明文を添えて展示しました。

江戸末期の女流歌人・大田垣蓮月の研究を通じて知り合った埼玉県立川越南高校書道部と手分け。青陵高校書道部は夏休みから三宅莉奈部長ら1、2年生11人が取り組みました。

1月8日には両校合同でギャラリートークを展開しました。まずロビーで実演。木堂28歳、48歳、60歳、70歳の文字を抜き出して筆の使い方を真似て年齢による書風の変遷をた

之得則求

木堂は50歳ごろ用筆法の大改革をしたと言われますが、青陵高校書道部顧問の金地真司教諭は「かつての木堂ファンは七十年代の昭和の木堂(の書)が一番いいと言います」と話しました。今回は主にごその年代の作品に絞っています。

続いて展示室に移り、遺墨の前で一人ずつ意味と解説、感想を発表しました。

作品の中に青陵高校が所蔵する扁額「求則得之」があり、3年平野友梨(ゆうり)さんが「孟子の名句で『求めればこれを得ることができる』という意味です。青陵の前身・精思高女のために書いてくださった58歳の作品です。木堂さんの信念だったと思われませんが、青陵生へのエールとしてしっかりと受け止めたと思います」と発表しました。

歴代首相の中でも特に優れた木堂の書のファンは多く、記念館には正月を挟んで多くの鑑賞者が訪れました。ギャラリートークには雨にも拘わらず約30人の市民が訪れ、高校生の視点から見た内容の濃い研究成果を興味深く見入っていました。

□…生徒の学年は平成28年度／犬養木堂の扁額「求則得之」は青陵高校本館2階大会議室に掲額しています。

どりました。1文字ずつ書いて発表。若いころのやや丸い字から徐々に鋭く、厳しい木堂調になっていく変化が見てとれま

(18期)

岩田正晴さん グローバルに活躍

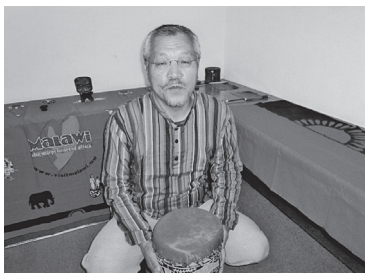
岡山の記念館でギャラリートーク 書道部

JICAボランティア終え帰国報告

岩田正晴さん、お帰り！2年間アフリカのマラウイでJICAシニアボランティアを終えて平成28年9月末に帰国した岩田正晴さん(18期)が、10月末に報告展「マラウイ Report・岩田正晴」を倉敷駅前画廊で開きました。

世界各国の写真を撮る友人の作品との2人展。首都リロングウエ市の都市計画づくりを支援する活動をした岩田さんが、その傍ら買い集めた木製の壁掛けやスプーン、木彫りのカバやゾウ、民俗楽器の太鼓など民芸品約20点を国旗とともに展示。岩田さんがスライドでマラウイの国情や自らの活動、生活ぶりを紹介していました。

会場には、高校や大学の同級生をはじめ市民らが訪れ、滅多に味わえないアフリカの雰囲気を楽しんでいました。



マラウイの民芸品を背に活動報告する岩田正晴さん(倉敷駅前画廊)

この報告展に先立ち、岩田さんは倉敷市芸文館で開かれた青年海外協力隊の帰国報告会に出席。マラウイ国を紹介した後、「車の運転禁止、上司が次々退職、ガソリンがないからごみ収集できずーなど戸惑うことばかり。活動としては道路の一部改善、歩道のり面の改良、住宅開発のア



倉敷市国際交流協会主催の活動報告会で報告する岩田さん(ライフパーク倉敷)

ドライブはできましたが、雨水や下水、ごみ処理は予算が少

なく達成できませんでした。都市計画は10～20年後に結果が現れるので期待しています。活動を通じて多くの人と触れ合い、マラウイ生活を十分楽しみました」と話しました。

続く同29年2月4日、ライフパーク倉敷で開かれた同市国際交流協会主催の活動報告会に出席。市民約60人が聴講する中、「マラウイは国家予算の40%が海外からの支援、リロングウエ市の収入も少ないです。国民所得は2万6000円程で世界の最貧国ですが、笑顔がいっぱいで幸せそう。貧困＝不幸ではないと感じました。クリーンで強力な指導者の出現が待たれます」と結びました。

また、かつてマラウイに船舶のJICA関連専門家(シニアボランティア)として滞在した経験のある池畑英樹さん(12期)も同席して体験を語りました。

□…旅と音楽を愛する岩田さんは、これまでにバックパッカーで世界44カ国を訪問。2011年にはベトナムで地域計画のボランティアを1カ月経験しています。

マラウイ(アフリカ)の都市計画を支援

“バカヤロ一解散、後、吉田首相来倉

美術館で懇談 昭和28年4月の新聞発見 青陵で演説

「單獨政権強調 吉田首相来倉で聴衆場外にあふる 青陵の自由黨演説会」。平成28年10月、倉敷町長を務めた実業家で倉敷市名誉市民第1号・原澄治(1878~1968年)＝号・彰邦＝を顕彰する講演会の資料の中で、倉敷新聞(のち廃刊)の興味深い記事を発見しました。

興味深い余談があります。吉田首相は演説会に先立ち、大原美術館で武内潔真(きよみ)館長や、選挙支援などで親交のある原澄治、倉敷市幹部らと懇談。席上、首相の「大原美術館は東京に移しフランス美術館にしたい」との意向

「優れたものこそ地方に」原澄治

に対し、澄治が毅然と反論しました。「それは困ります。優れたものこそ地方に置くべきです」との発言に、首相は「笑顔でうなずいた」と倉敷新聞は伝えています。突如飛び出した仰天提案に理詰めに対抗した澄治の見識が光ります。

大原美術館は今や観光倉敷の至宝です。64年前の首相の移転発言は倉敷市民でさえ忘れていていると思いますが、東京へ移転していたら今の倉敷の象徴はどうなったでしょうか。



当時、青陵3年生だった澄治の孫圭一郎さん(5期)＝顔写真＝は「吉田首相が青陵高校に来たのは覚えています。大原美術館移転の一件は祖父から直接聞いたわけではありませんが、首相がどこまで本気だったかわかりません。(私の親族の大原)孫三郎さんの存命中にも、他からこの種の話はあったようです。祖父と首相はトラ年生まれで同い年で、気が合ったみたいです。でないと、首相にざばり言えないでしょう(笑)。孫三郎さんの遺志をそのまま伝えたいと思います」と、耳寄りな裏話を披露してくれました。

政局の渦中にある吉田首相でしたが、地元有識者との懇談ではすっかりくつろいでいたことが分かるエピソードです。

孫圭一郎さん(5)「首相と親交、ざばり言えた」

倉敷新聞は青陵での演説会より大原美術館移転の記事を大きく扱っています。それほど衝撃的だったということです。□…原圭一郎さんは前倉敷天文台理事長です。顔写真は山陽新聞より。

昭和28年4月14日、吉田首相が世に名高い“バカヤロ一解散、の1カ月後、岡山2区テコ入れの自由党演説会に出席のため来倉、青陵高校運動場に来場しました。突然の解散・総選挙投票5日前という揺れる政局の生々しい時期でした。

同紙には「午後3時前から県民が続々詰めかけ約2,500人の聴衆で溢れ返った」と状況を説明。「地元衆議院議員候補らの政見発表ののち、吉田首相が登壇するや、まず『色男!』のヤジ第一声」とあります。首相は「今回の国会解散は野党の閣取引と陰謀から民主主義を守るためであります。政治の明朗化なくして日本の再建はできません。また、政局安定のため他党との連立はあり得ません」などと、35

聴衆2,500人 運動場満杯

分間にもわたり解散の経緯と総選挙の狙いを熱く語ったと報じています。

首相の演説開始早々に発生したマイクの不具合を壇上の県議が報告した途端、「バカヤロ」というセンスの良いヤジが飛びなど、会場は盛り上がりました。

会場提供とはいえ、青陵高校に現職首相が来校したのは長い歴史の中でも初めてのことでしょう。市民会館のない時代、市街地にある青陵は昭和34年、体育館でウィーン少年合唱団の演奏会が開かれるなど、大きなイベント会場になっていたようです。

□…この一件は青陵の「創立100周年記念誌」にも記述が見当たりませんでした。

岡山2区テコ入れ

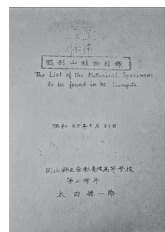
「政局の安定…連立あり得ない」



吉田首相の青陵演説会と大原美術館移転に関する新聞＝昭和28年4月16日付倉敷新聞

「バカヤロ一解散 昭和28年2月28日、衆議院予算委員会社会党右派の西村栄議員の追及に対し、吉田首相が小聲で「バカヤロ」と発言したことがきっかけで、13日解散第26回衆議院議員選挙(4月19日投票)に突入した。吉田首相は通算在任5年半の長期政権だったが、この1年半後に退陣した。

在学中に「鶴形山植物目録」作成



67年ぶりに発見された太田徳一郎の植物目録(左上の写真)

青陵生がまとめた67年前の冊子を発見。「彰邦」の号を持つ文化人・原澄治は大変な読書家でした。晩年、孫圭一郎さんに命じて蔵書を整理、その一部3000冊を倉敷市立倉敷図書館(現中央図書館)に寄贈しました。同図書館は「彰邦文庫」と名付け図書目録を作成しています。原澄治を取材した編集委員が彰邦文庫の内容に興味を持ち、図書目録を渉猟中に偶然発見したのが1冊の冊子でした。「鶴形山植物目録」と題し、昭和25年9月に青陵高校富井校舎科学部が編集、著者は「第三学年太田徳一郎」となっていました。同年は圭一郎さんが入学する1年前なので、どのような経緯で澄治の蔵書になったのかは分かりませんが、手書きのガリ版刷り22ページ(B5判)を黒い紐で綴じた簡素なもので、セピア色にはなっています。

こぼれ話 2期太田徳一郎さん(故人)

が十分読めます。「はしがきに「生物科目の研究課題で『自宅植物の研究』に取り組み分図作成がうまくいったので、まだ研究されていない鶴形山の植物調査を思いつきました。宇野先生の助言で昭和23年10月から約1年がかりで調査しました」とあります。内容は「種子植物(おおはこ科やあやめ科)」「洋歯植物(ぜんまい科など)」「鮮苔植物(つやごけ科など)」113科目、550種類を挙げ、科目名、平仮名で和名、ラテン語と列挙されています。その結果、100%近くが種子植物でした。冊子にまとめた太田さんは2期生で、専門的な学名まで調べられるという驚くべき調査態度でした。すでに亡くなられています。

倉敷の図書館(製)で67年ぶり冊子発見

会員ニ点揃 (平成28、29年) 現役を含む

[受賞・受章] 木村郁郎さん(15期)が平成28年11月、秋の叙勲で瑞宝小綬章を。東京の15期の集いの幹事を長年務め、同29年3月、同級生らを招待し祝福されました。❖岡山大学名誉教授で詩人の岡(現姓古川)隆夫さん=8期=が同年4月、詩集「馬あせいで」で第50回日本詩人クラブ賞を受賞しました。21冊目の作品で、戦争をテーマにした31編を収めています。岡山県内の同賞受賞者は井奥行彦さん(元在職教員)に次いで2人目です。元岡山県詩人協会会長。同年7月には岡山芸術文化賞グランプリを❖同年2月、第6回おかやま新聞コンクールの新聞感想文の部で、1年設楽深鈴(しだら・みすず)さんが岡山県教育長賞(優秀賞)に、同三宅美優さんら10人が入選しました。❖同年2月、倉敷市民文学賞の短歌で池田(旧姓難波)邦子さん=4期、川柳で浅野(旧姓大橋)美代子さん=家庭科16期=が、それぞれ大賞に選ばれました。❖小野弘さん(1期)が同年3月、春の叙勲で正六位瑞宝双光章を。元倉敷・味野中学校長。2月に死去されました。❖水内利夫さん(16期)が同年4月、危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章(消防功労)を。元倉敷市消防監。❖肝臓専門医の松田病院院長松田忠和さん(18期)が同年8月、がん征圧岡山県大会の席上、県知事感謝状を。以上の皆さん、おめでとうございます。

[当選] 任期満了に伴う倉敷市議選(定数43)が同年1月に行われ、青陵卒業生が4人当選しました。上位の得票で三村英世さん(無所属)=38期=が5期目、藤原(現姓鳥井)薫子さん(民進党)=44期=が4期目、ベテラン雨宮紘一さん(無所属)=11期=が8期目の当選を果たし、30期の若林昭雄さん(同)が初陣を飾りました。4氏のご活躍をお祈りします。三村英世さんは同年6月、全国市議会議長会表彰(議員15年以上)、中国市議会議長会表彰(議員16年以上)をダブル受賞しました。

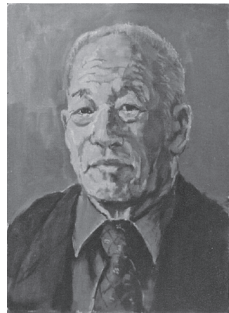
[講演] 京都大学教授森和俊さん(28期)が同年3月、岡山市の山陽新聞社主催「おかやま楽習塾」講師に招かれ、「研究者として生き抜く」と題して。同年8月には岡山県三木記念賞を受賞しました。❖倉敷市大山名人記念館長の北村実さん(3期)が同年8月に同市で開かれた全国将棋サミット2017で「倉敷を愛した大山名人」と題して。東京在住の大山名人は長年、住所を倉敷市に置き、住民税を払い続けたエピソードが明かされました。

[作陶展] 酒津焼の岡本和明さん(36期)が平成28年12月、倉敷市内のギャラリーで=写真①。作陶歴28年。ぬくもりを感じる海鼠釉(なまこゆう)などの食器や花器約80点を展示、陶芸ファンが次々訪れ

ました。**[洋画展]** 岡山日展会会長の福島隆壽さん(元在職教員)が同29年1月、岡山高島屋で。「瀬戸内海シリーズ」の作品など25点を展示、絵画ファンが鑑賞に訪れました。❖元倉敷美術協会会長の渡辺暉夫さん(10期)が同年5月、倉敷市立美術館で喜寿記念裸婦展を。力作40点を展示、同期生らが訪れました。=写真②(自画像)



写真①



写真②



写真③



写真④

[詩の企画展] 全国に知られる詩人井奥(難波)行彦さん(元在職教員)=写真③=と、妻で詩人なんば・みちこさんとの企画展が同年3月、総社市立図書館で。2人の作品10編ずつを直方体や三角柱の表面に記して配置。彫刻展のようなユニークさが鑑賞者の注目を集め、詩の朗読会と2人のトークショーは大盛況でした。同年5月には同市の文化関係者の尽力で、宝福寺境内に2人の業績をたたえる立派な顕彰詩碑が建立され、お披露目式が行

われました。**[作品展]** 佐賀錦織40年の大土(旧姓田中)正子さん=15期=が同年3~4月、倉敷市のArtSpaceはしまやオープン記念で、佐賀錦を材料にした作品約30点を展示。専門の制作者により、お雛様=写真④=やハンドバッグ、アクセサリなど気品あふれる華やかな作品に仕上げていました。❖今春、岡山大学を卒業したばかりの切り絵作家辻文子さん(64期)が同年5月、岡山市のギャラリーで初個展を。草花や小動物をモチーフにした作品約30点を展示しました。

[返礼の作品] 「青い目の人形」を日本各地に長年贈り続けている米国人夫妻に対し、倉敷市教委は平成28年12月、返礼として、所有している倉敷の天神窯の作品を贈りました。この作品は天神窯の作家川上(旧姓岡本)節子さん=18期=の作品「立ち雛」です。

[コンサート] コーラスグループを主宰する妹尾(旧姓小郷)美穂子さん=31期=が同29年8月、早島町のゆるびの舎で、「映画『メリー・ポピンズ』ソングメドレー」や「活弁オペラ『椿姫〜ラ・ヴォーチェ風』」など多彩なプログラムを披露、聴衆を魅了しました。

[著作] 詩誌「黄薔薇」のベテラン同人で詩作六十余年の吉田博子さん(13期)が同年1月、第11詩集「母樹(ははぎ)」(思潮社)を刊行しました。波乱の人生を紡いだ25編を収録しています。この詩集で同年9月、第17回中四国詩人賞を受賞しました。

[PR動画出演] 倉敷市が同年3月、移住者誘致促進で制作した動画にタレント水道橋博士(本名小野正芳)=33期=が進行役で。動画は市内地区別紹介、生活費、移住者の声など短編16本。「倉敷市移住動画」で検索すると見られます。

[同窓会予告] 青陵剣友会(剣道部OB会)が、毎年9月の青陵祭(3日間)終了の翌日午前10時から青陵武道場で総会と現役交流会を。❖18期古希同期会を平成30年5月28日(月)午後3時から倉敷アイビースクエアで。会費8,000円。同年2月中に案内はがきを発送します。

[同窓会入会式] 同29年2月、青陵高校体育館で。今春の68期卒業生314人が入会しました。卒業生は倉女40期、精思1期を合わせ3万3694人となりました。席上、同窓会から卒業生へ記念品の目録(卒業証書入れ)が贈られました。

[礼状] 青陵高校同窓会へ同年11月、熊本県南阿蘇村から震災義援金(10万円)寄託に対して。

[訂正・お詫び] 本紙第47号10ページの「学校生活」と、第48号16ページの制服の記事中のいずれも「KH」は「KS」❖第48号5ページの近畿青陵会リポートの「小宮久幸」は「小宮幸久」の、いずれも誤りでした。

同窓会

高嶺の花も

そばにあり

5年ぶりに旧交を温めた32期生



倉敷青陵高等学校 32期同窓会

32期同期会

毎月集うという歴代青陵生でも珍しい1期生の十六夜会=平成29年7月の例会



十六夜会(1期)

バレー部OB会
30年ぶり復活

「先輩、(私が)分かります?」と、OB・OGが青陵体育館に続々集まってきました。平成29年8月12日、「30年ぶりに集まろうよ」と、林俊輔さん(28期)らの呼び掛けで、バレーボール部OB会が復活しました。約60人が集合、現役部員対OB・OGが2コートに分かれて親睦試合を展開しました。手を抜いては失礼?と、機敏な現役の強烈なスパイクに一歩も動けない先輩たち。夕方から倉敷アイビースクエアで懇親会を開き、名称を「青排会」、大倉尚志さん(27期)〓086-428-7650〓を会長に決め、毎年この時期に集まることにしました。

親睦試合の前に集合したバレーボール部のOB・OGと現役部員

青排会



米寿目前、健康長寿を謳歌

旧制倉敷中学1期生として入学、青陵1期生として卒業しました。若い頃からなぜか毎月16日に集い、「十六夜会」と名付けて40年以上。市内の料理店「八重」に、かつては十数人、今も7、8人が市内外から集います。毎月開催は歴代青陵生でも珍しい。医科大副学長、初代岡山県歯科医師会会長ら社会の最前線で活躍した人ばかり。間もなく米寿ですが健康長寿を謳歌しています。内藤朝之(ともゆき)さん(086-444-11497)が長年幹事です。

72人一堂に気がつけば3時間

平成29年8月13日に倉敷アイビースクエアで5年ぶりに開催しました。恩師の出席はありませんでしたが、地元をはじめ東京から福岡までの広い範囲から72人の懐かしい顔が集いました。積もる話で盛り上がり、気がつけば3時間かたっていました。5年後の還暦の再会を約束してお開きにし、2次会へ繰り出しました。みんな気分は今でも青陵生?です。(田中一男)

卒業期を超え和気あいあいプレー

平成29年9月、青陵ゴルフ会(仁科喜佐男会長・5期)に取材を兼ねて参加しました。11年前に発足、コンペを倉敷カントリー倶楽部で年6回のペースで開き、間もなく70回になりました。今回は3期から24期までの女性を含む18人が参加しました。いつもながら卒業期を超えて和気あいあいプレーを楽しみ、親交を深めました。事務局長の目黒義則さん(20期)〓目黒建設(株) 086-476-7887〓は「新しい参加者を歓迎します。連絡ください」と呼び掛けています。

青陵ゴルフ会



和気あいあいプレーを楽しんだ青陵ゴルフ会の参加者

今後の予定

本部総会

平成30年8月5日(日)
午前10時から
倉敷アイビースクエア
(当番幹事)3と4の付く期と
本年度の卒業生(69期)

東京青陵会

平成30年6月2日(土)
午後3時から
東京・明治記念館

近畿青陵会

平成30年5月27日(日)
正午から
大阪・太閤園

九州青陵会

平成30年10月13日(土)
午後4時から
福岡・西鉄グランドホテル

編集後記

●…平成29年は同窓会も学校も話題が豊富でした。年明け早々、青陵高教諭・広瀬洋介監督率いる全国都道府県対抗女子駅伝の岡山チームが見事準優勝を果たしたのを皮切りに、4月には4年在任した田中尚校長が勇退、21代目となる土家楨夫校長が着任しました。夏の高校野球岡山大会開会式で、青陵主将が堂々の選手宣誓をして青陵の士気を高めました。同窓会も本部は岡田展弘、東京は武本幸寿の25期生のお二人が新会長に就きました。

●…編集の都合上、いろんな資料を渉猟します。最新の岡山県要覧(ポケット版)の「岡山県出身・ゆかりの著名人」コーナーを点検しました。倉敷関係では吉備真備から高橋大輔までいますが、そのうち青陵からは、科学分野で森和俊(分子生物学者・28期)、文化分野で松本和将(ピアニスト・49期)、芸能分野で水道橋博士(タレント/本名小野正芳・33期)、スポーツ分野で窪田登(五輪重量挙げ選手・1期)の4氏が掲載されていました。(S)

〈本紙の編集〉

*原稿締め切りは9月未了です。編集、校正作業を経て12月末には全卒業生にお届けします。
*幹事の当番期に拘わらず、広告掲載をお願いしています。1枠5000円です。

岡山県立倉敷青陵高校「同窓会だより 青陵」第49号

発行 岡山県立倉敷青陵高校同窓会
[事務局] 〒710-0043 倉敷市羽島1046-2 TEL:086-422-8001 FAX:086-422-8004
e-mail:seiryu05@pref.okayama.jp URL:http://www.seiryu.okayama-c.ed.jp
発行人 岡田展弘(25期)/編集委員 今岡道雄(13期) 佐藤豊行(18期) 林俊輔(28期)
清水建吾(サラト)/顧問 加川英郎(4期)
印刷 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

お願い 同期会や同窓生の情報を事務局の林俊輔(青陵高校教諭)へお寄せください。

Welcome to the International Space Station

ようこそ田淵先輩！ 青陵高校は平成29年2月13日、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の安全・信頼性推進部技術開発グループ副グループ長・田淵光彦（てるひこ）さん＝26期＝を招き、「Welcome to the International Space Station」（国際宇宙ステーションへようこそ）と題して約1時間半、特別授業をしていただきました。

進路選択や生き方の指針にしようとして、くすのき会館に2年生全員と教職員合わせて約340人が集合。国際宇宙ステーション（ISS）を中心とした国の宇宙関連プロジェクトを通して田淵さんの半生に耳を傾けました。

JAXAの田淵光彦さん(26期)が青陵で特別授業

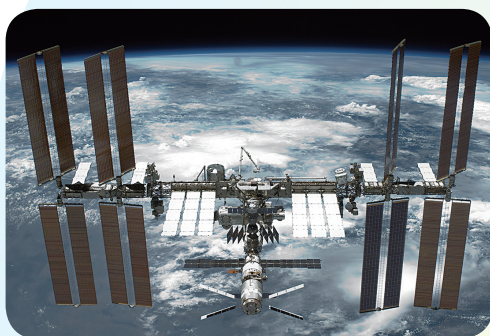
3施設統合してJAXA誕生

皆さん、JAXAをご存じですか？ 小泉内閣の特殊法人改革で、2003（平成15）年に宇宙科学研究所、航空宇宙技術研究所、宇宙開発事業団の3施設を統合して発足。基礎研究から人工衛星・ロケット開発、宇宙利用まで一貫して取り組んでいます。

主な施設としてロケット打ち上げや人工衛星を追跡する筑波宇宙センター、航空開発に特化した調布航空宇宙センター、大型ロケット打ち上げの種子島宇宙センターなどがあります。

JAXAは「宇宙ステーションを作ろう」というレーガン米大統領の呼び掛けに応じて1985（昭和60）年、国際宇宙ステーション計画に参加しました。日本をはじめロシアや欧州の計15カ国が協力しています。

ISSは地上400^{キロ}上空に建設された人類史上最大の宇宙有人施設で、地球と宇宙の観測、宇宙環境を利用した研究・実験を行います。



国際宇宙ステーション（ISS）のイメージ

サッカー場の大きさで、秒速8^{キロ}という、ピストルの弾よりも速いスピードで地球を90分で1周します。

JAXAはISSの一部・実験棟「きぼう」を開発しました。

日本初の宇宙有人施設で、ISSの機能の中では最大規模です。約300社が携わって組み立てました。日本独特の船内実験室や船外実験プラットフォーム、機器の出し入れ施設など6つの要素を備え、材料実験やX線観測を行います。

〈ビデオにより、宇宙飛行士・油井亀美也さんから「きぼう」の船内紹介で、冷凍庫、生物関連実験、燃焼実験、ロボットアームの操作の説明がありました〉

「きぼう」は日本からアメリカ航空宇宙局（NASA）に輸送、スペースシャトル（輸送機）で打ち上げられ、2010（平成22）年ごろセットしました。

宇宙ステーション補給機「こうのとり」は、「きぼう」の設置に合わせて運用を開始した無人貨物船です。大型バスの大きさ。重さ16.5^{トン}で6^{トン}の物資が運べます。「こうのとり」5号機は荷物置き場や広報活動など機能満載。アジアの国々にも利用してもらいたいです。

「こうのとり」は「きぼう」の真下で止まり「きぼう」につかんでもらい、ソフトドッキングします。荷物を降ろした後のカラの「こうのとり」は、「きぼう」のごみを詰め込んで大気圏に突入、廃棄物処理を行います。

現在6号機が活動中で、2024（平成36年）まで運用の予定です。実験が進めば結晶の質の良いタンパク質を作って創薬に役立てることができ、今後は惑星探査のプラットフォームにも使えたら、と思います。

地球から100^{キロ}以上離れた宇宙の環境は、無重力でいろんな放射線や太陽エネルギーが注ぐ過酷な条件です。無重力だと対流がなく容器に入れる必要がない、浮遊・沈降が抑制されます。温まった空気が上に行かないので火の炎は丸くなり、

水は球形になります。

宇宙ステーションでは宇宙飛行士6人が生活します。体形が変化してムーンフェイスになり、身長は6カ月で3%伸びますが背が縮んだような姿勢になります。

6時起床、8時間労働、2時間体力トレーニングをします。

動けなくなるのでジムで運動するのです。あと掃除に2時間。風呂はなくウェットタオルで拭きます。寝るのはどこでも寝られますが、ベルトで固定します。尿はカップにためて再利用、コーヒーになります。大便是タンクに詰めて「こうのとり」に積み込み、大気圏で処理します。

服装は普通の服ですが、船外作業は10億円もする宇宙服を着ます。食事は作れないので宇宙食です。レトルト食品やフリーズドライなど。お菓子、羊羹、緑茶、おにぎり、リンゴ、オレンジなども携行します。酒は飲みません。



田淵光彦さん

45歳 英語力で日揮から転職

私は倉敷市福田町の出身です。小さいころ父親がよく本を買ってくれて、図鑑で「世界の不思議」などを読むのがとても好きでした。成績もすごくよかったんですが中学から勉強しなくなり、青陵1年生の時、数学の授業が面白くなって赤点を連発。父親とともに担任に呼び出されて「行ける大学はないぞ！」と叱られましたね。

家ではオーディオを組み立て、音楽を聴くのが好きでしたが、サッカー部をやめて2年生から勉強しました。第1次オイルショックのころで、エネルギーや海洋開発、半導体技術に興味を持ち、原子力分野へ進もうと思いました。

ノーベル賞学者を大勢出した京都大学に憧れ、3年生の夏休みに見学に行ったんですが無理で、大阪大学工学部に入り原子力工学を専攻、大学院マスターコースまで修めました。

卒業後はエンジニアリング会社・日揮（本社・横浜市）で、原子力再処理の最初のプラント（設備）を作りました。20年勤めた後、英語力を買われ天文学が好きなおもしろい、"天"の字、に導かれ45歳で宇宙開発事業団（のちのJAXA）に転職しました。そこで「きぼう」、「こうのとり」、「はやぶさ2」（小惑星探査機）の開発、安全確保の仕事に携わりました。

JAXAには航空宇宙工学専攻の人ばかりではなく文系の人もあります。ダイバーシティ（多様性）の時代、大学で自分探しをし、得意技を身に付けてください。世の中で一番大切なことはコミュニケーション力を高めることです。ご清聴



青陵2年生にJAXAと自らの歩みを語る田淵さん（右奥）

ありがとうございます。

□…宇宙関連用語はインターネット情報で補強しました／田淵さんは東京青陵会副会長を4期・8年務めました。

ようこそ先輩！

「きぼう」「こうのとり」を開発

得意技身に着け会話力高めて